良き師は隣の席にいる
小学校編

iała あゆこ

「どんな子どもに育てたらいいか？」
絵や習字、作文などの作品やお話が上手になると心から嬉しく思います。できるようになったときの笑顔を見せて、いつたい熟い指導になることもあります。

「喜び」
話が上手であることにこしたことはありませんが、文面が絵でもジェスチャーで合図でも歌でもカッコでも何でも良いから、自分の得意なものを表現できる子に育てたいです。

俵あゆ子先生

稚内市立稚内南小学校勤務
担当学年：3年2組
分掌：指導部

好きなこと：海と旅とピールと宴会と人が大好きです。

舞台も好きです。

「子ども一人一人の成長のために・・・」
よく話し、よく観察します。北で育つ子どもたちは自分を低く見積もる傾向がある。少しする目標も無難なものが多いので、こちらからちょっとがんばればできるような高い目標を個別に提示してあげることにも、心がけています。そして、「こうやってやるんだ」と示します。あとは、コンクリートできるまでやるさせる。それを働させれば我慢強くコンクリートされるとありがたまです。根負けするので、むしろ教師かしめません。分野は千差万別、学習の場合もあれば、生活習慣作り、人間関係のスキルということもあります。子どもたちは、教師がやっていることを真似して身につけていきます。良いことも、もちろん悪いことも。ですから、子どもの前の言動については自分を戒めるようにしています。

「若き皆さんへ」
夢を持ち、自己研鑽を怠らないこと。自分と家族を大切にすること。が大切だな〜と思います。一生懸命な教師の姿も、そうでない姿もそのまま児童・生徒のロールプレーゲームとなります。いつも気にして生活する必要もないけれど、そういう自覚がないよりあった方が良いと思います。どうか宗谷の子どもたちのモデルであってください。南小学校は、同僚達が私を輝かせてくれます。個性を認め、活かしてくれます。そんな職場で仕事ができることが今の私の限りです。様々な局面で、ですから私も、そうありたいと思います。同僚を様々な局面からお手伝いできるようこれからもがんばります。

一緒に舞台で演劇を思いっきり楽しむ、楽しい楽しみを伝えたい。
「今の子どもたちは？」
基本的には今も昔も変わらない（思う）。
むしろ大人の都合で過保護にしがみついて、忙しくさせてしまったり、本当に大切なことを伝え切れていないように思います。

「どんな子どもたちに？」
周りから、「めんこがらせる」子どもを育てたい！
「めんこい、めんこい」と言って（思って）育てるとなぜ「めんこい」子どもに育ちます！

平塚貴広先生

稚内市立稚内南中学校勤務
担当学年：2年4組
分掌：生徒指導部
部活：バドミントン部

好きなこと：スポーツ（剣道）
ドライブ（愛車セリカ）
パチンコ（〇ル〇ンで1円パチンコ）
苦手なこと：ちょっと静かにしていること

「子どもたちが生き生きとした学校生活を送ることができるようにしていること」
心から期待するけど期待しない」
やってほしい、できてしまうことを常々（説文のように）伝え、やろうとしたときに褒める。
できたらもっと褒める！その伝え方やタイミングを逃さないようにしています。
基本、子どもの主体性を信じます。（でも、かかる場合はガッチリ叱ります！）

「若いう先生方へのメッセージ」
子どもの人権を尊重しつつ、とにかく全力で、楽しみながらふつうりしましょう！子どもたちとの信頼関係を築くところから本当の指導が始まります。
（余談ですが）通常学級の生徒も特別支援の生徒も、人として大切にしなければいけないこと、伝えなければいけないことは同じだと思います。ということで、今日も明日も忙しくてくれましょう！！